

令和 7 年度

試験名:学群編入学試験

【社会・国際学群社会学類社会学主専攻】

区 分	標準的な解答例又は出題意図
専門科目	日本における環境社会学の第一人者である飯島伸子の思索を社会的に検討した、友澤悠季『「問い」としての公害——環境社会学者・飯島伸子の思索』(2014)から抜粋した文章を読ませ、以下 2 問の回答を求めた。 問 1 飯島伸子が提唱した「被害構造論」は、国内だけでなく国際的にも評価されている社会的な理論である。飯島の社会学者としての「公害」という学際的なテーマへの取り組みとそこでの社会的な理論構築への著者による考察を読み、社会的な理論予測性という点における本理論の課題や、他の学問と社会学との差異などに言及しながら本理論の意義を述べられているかを評価した。 問 2 問題用紙 2 頁に記載されている「被害構造」の概念を読み、「被害レベル」と「被害度」などに着目しながら、現代社会で生じる具体的な社会問題をとりあげ考察を展開できているかを評価した。とくに、被害を個人にふりかかるものとせず、様々な要因が複合的に影響を与えるという社会的な側面を理解できているかを評価した。

令和 7 年度

試験名:学群編入学試験

【社会・国際学群社会学類社会学主専攻】

区 分	標準的な解答例又は出題意図
外国語	オーストラリア出身の社会学者 Punch による「<i>Introduction to Social Research: Qualitative & Quantitative Approaches</i>」から出題した。本書は実用的な観点からも近年ますます必要とされる「量的調査」、「質的調査」のアプローチ双方への理解を目指している。とりわけ本学では、例年調査法の出題が多いことも加味した。 今回の設問では、本文中のそれぞれのトピックから1題ずつ、また社会調査の基礎である量的調査と質的調査の違いとその位置づけを正確に理解して読解するような内容とした。 問 1 複雑な文法構造になっている。特に、英文を読む際に必要となる主述の関係、修飾の関係(どの節がどこにかかっているのか)を理解する問題である。特に with をどのように訳すのか。また、研究上の基礎的な英単語 (Dimension、structure、strategy)を理解できているかを問う問題である。 問 2 本文中の research questions の部分で、対比を上手く言い表すために Wolcott は問いを探るか、答えを探るかという対比でまとめた。回答は、Wolcott (1982) の後を読めばすぐ分かるはずだが、シンプルかつ奥深い言葉であるため、出題した。 問 3 基本的な単語と訳が出来ているかを確認した(例えば最上級 the clearest の訳、come from という熟語、experimental など)。 問 4 質的調査においても量的調査においてもデータのコーディングが重要になる。それは、前もっておこなうコーディングとデータを取得した後に行うコーディングがあるが、そのことを本文から読み解き、正確に説明できているかという意図で出題した。 問 5 本文のそれぞれのトピックから量的調査と質的調査の方法の違いが浮かびあがる。本問題は、図表に完結にまとめられた位置づけを本文の内容を補った上で、正確に説明できているかを問う問題である。